

校長室通信

令和 7 年 2 月 12 日号
志免町立志免西小学校
高良 祐治

先日、災害や事件などの緊急時に、確実に家庭に子どもを渡す「引き渡し訓練」を行いました。保護者の皆様には時間を調整して協力していただき、ありがとうございました。当日は、大きな混乱もなく引き渡しを行うことができました。

このような訓練は、訓練だけであってほしいと思うのですが、いつ、本番がやってくるかわかりません。だからこそ考えておかねばならないことがあると思います。

本番をイメージして

報道等でも繰り返し報じられているように、マグニチュード 8～9 クラスの地震、いわゆる南海トラフ地震が今後 30 年以内に発生する確率は 70～80% と言われています。また、近年の集中豪雨や台風の大規模化など、これまでの常識を越える自然災害が日本各地で見られるようになりました。さらに、先月の北九州や長野で発生したような通り魔殺人事件など、重大な事件も発生しています。

私は、このような災害や事件などをニュースで見るたびに、「これが子どもたちが学校にいる時に起きたらどうするか？」ということを考えます。

まずは、“今”学校にいる子どもたちの安全を確保する方法を考えます。宇美川が氾濫し、校舎への浸水の可能性があれば 3 階へ児童を避難させるでしょうし、凶悪な事件が発生し、犯人が逃走中というニュースが飛び込んでくれば、施錠を確認し、教職員同士が連絡を取り合いながら、校舎内外のパトロールを行うでしょう。

その上で、各家庭に引き取りをお願いするお知らせを発信することになります。しかし…、引き取りの訓練を終えたばかりなのにこのようなことを書くのはおかしいのかもしれませんが、先日の訓練と同じようには進まないと考えています。

今回の訓練は、事前に内容や方法をお知らせし、部友ごとの時間に合わせて引き取りを行っていただきました。ところが、本当にこのような事態が発生したときは、突然連絡が来ます。そのとき仕事でスマホが手元にないかもしれません。外出中ですぐには学校まで行けない状況かもしれません。さらに、地震や洪水などの自然災害の際には、自身も被災し、学校までの道路が寸断され、学校に近づくこともできないかもしれません。

2001 年に大阪教育大学附属池田小学校で起き

たような事件が発生すれば、部友ごとの指定時間まで待つて引き取りに行くのではなく、我が子の安否が心配で、何はともあれ学校に駆けつけるのではないのでしょうか。

このことからわかるように、実際に引き取りをお願いしなくてはならない状況は、様々なケースが考えられます。

今回の訓練は、自家用車の場合は、正門から左折で入り、運動場に駐車後、中央階段を登り、上の階から順番に子どもを引き取って…という「手順」を確認するためのものです。1000 名を超える子どもたちを家庭に引き渡すことは、緊急時にはかなりの混乱が予想されます。しかし、今回の訓練を通して、基本的な手順を学校と家庭で共有しておくことで、少しでも混乱や二次被害を減らすことができればと考えています。

ご家庭でも、今回の訓練を契機に、緊急時の対応について、様々なケースを想定して話し合っていたけると助かります。

備えるべきことは

東日本大震災で、74 名の子どもが避難中に津波にのまれ、死亡・行方不明になった小学校がありました。この時、避難場所をどこにするか議論していて、結局学校を出発したのが地震発生後 40 分だったことや、あらかじめ避難計画をつくっていなかったことが、後日明らかになりました。そして、このことをきっかけに全国の小学校が危機管理マニュアルを見直すことにつながりました。

子どもたちの安全は、学校だけでなく、ご家庭や地域の理解と協力があって成り立つものだと思います。万が一のために、これからもどのような体制をつくっていくことがよりよいのか考えていきたいと思っています。